

「冷」「温」「熱」の熱伝達技術を活用し、 企画から生産までを手掛ける

1960年にメッキ加工業として創業し、1972年に冷蔵庫・冷温水器の生産を開始。以降、ウォータークーラー、スチーマー、ウォーマー等の冷温熱機器を中心に手掛けて、「冷」・「温」・「熱」の熱伝達技術を強化してきた。また、積極的な人材・設備投資により内製化率を高め、デザイン企画設計から生産までの一貫体制を構築してきた。これらの取組により、現在では多様な分野の事業におけるソリューション提案が可能となり、ものづくりのパートナーとして顧客企業のサポートに尽力している。

所在地 静岡県富士市天間177-2
電話 0545-71-1340
URL <https://www.nishi.co.jp>
代表者 代表取締役社長 小林 公一

設立 1960年
資本金 9,750万円
従業員数 118人



地元静岡県の特産品(茶葉)を活かしたオリジナル製品の開発

同社オリジナル製品である多機能エスプレッソ&ドリップマシンの「X shot」は、飲食店を中心に利用されており、コーヒーだけでなく静岡県の特産品である「お茶」をエスプレッソすることが可能である。同製品は東京・大阪・福岡等で開催される大きな展示会で出展された実績があるほか、地元富士市においては、富士商工会議所より「富士ブランド」として認定されており、地域おこしと特産品振興を目的とする地域経済活性化プロジェクトに貢献している。



X shotを出店した展示会ブース

医療・福祉事業向け誤嚥防止機器・フードスチーマーの製造・販売を展開

同社は加速する超高齢社会の需要を獲得するため、「温」のノウハウを活かして医療・福祉市場に向けた製品を開発してきた。そのなかでも、誤嚥を防止する機器や、配膳盆に載せたまま食事を温めることができるフードスチーマーは、高齢者の食事支援に関するニーズに応えられる製品として期待が高い。コロナウイルスの影響により、積極的な営業活動は難しいものの、今後の医療・福祉製品事業における取引拡大に向けた契機になると考えている。



同社製品のフードスチーマー

ITを活用した販路開拓、外部機関との連携による自社ブランドの深化・探求

withコロナ、afterコロナといった新時代のニーズを掴むべく、今後はIT化を織り込んだ経営戦略や事業ドメインの再構築が必須であると認識している。これらを達成するための最初のステップとして、ジョブ型雇用の外部人材をトップに据えた「事業企画室」を設立し、新事業・新商品の企画を推進している。また、事業企画室の設立に先立ち、経産省や中小機構と連携し、ITを活用した販路開拓、同社ブランドの深化・探求に注力している。



事業企画室の記事「中部経済新聞掲載」